

関電不動産茅場町ビル



外観

木調のアルミパネルを前面に用いたシンボリックなファサードに、バルコニーの軒天井やアプローチ周辺には国産木材を採用し、来訪者をあたたかく迎える外構空間となっている。

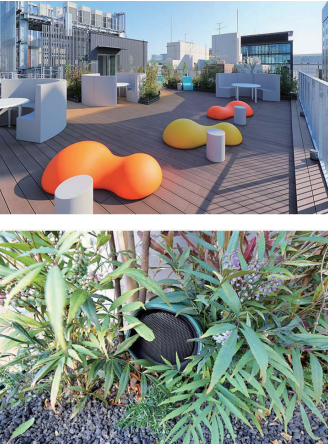


エントランスホール

グリーンウォールを設けて、ワーカーや来訪客をやわらかく迎えるエントランスホール。季節や天気にあわせた世界各地の映像が流れる“窓”をイメージしたモニターを配置し、通るたびに変化を楽しむことができる。

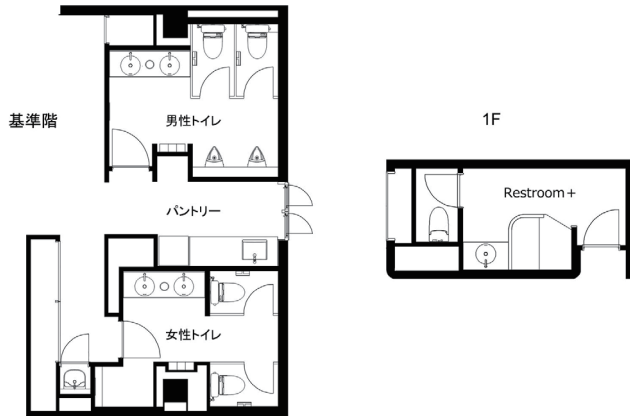


ルーフテラス



屋上ルーフテラスは、気分転換やリフレッシュができるサードプレイス。カジュアルなコミュニケーションが取れる多様な場所を用意し、心地よいBGMが流れる中、オンのワークとオフのくつろぎを心地よく横断させる。

トイレ図面



水まわりの特長

建物の特徴

「関電不動産茅場町ビル」は、2路線を利用可能な利便性がよい東京メトロ「茅場町駅」より徒歩1分に立地する、同社の開発事業として初となるコンパクトオフィスビル。ベンチャーやスタートアップ企業をメインターゲットに、「つながり」に味方する」をコンセプトとして、多様なつながりでチームビルディングを後押しするオフィスとして開発された。外観は、多摩産の杉など「木」を取り入れ、都市的なシャープさの中に温かみを湛える。1Fには、共用ラウンジや会議室、屋上にはテラスを設けるなど、コンセプトを体現する交流や創造性を高める共用空間を備えている。環境面では「ZEB Ready」認証および「BELS」の最高ランク6つ星を取得。企業のニーズにあわせた、選べるセットアッププランを用意している。

トイレの特長

関電不動産茅場町ビルは、人とのつながりを大切にするワークプレイスを計画。そのコンセプトを体現する共用空間が集まる1Fには、だれもが多目的に利用できるトイレ「Restroom+」が設置された。一息つきたい時や移動前の身繕いなど、基準階トイレでは満たしきれないニーズに応える空間が確保され、あえて「自分と向き合える」場として位置づけられている。基準階のトイレは、ナチュラルなブルーグリーンを基調とし、アートクロスを採用したカフェライクなデザインで、堅苦しさのない心地よい空間を演出。さらに、女性トイレにパウダーコーナー、男女別トイレそれぞれには小物入れを設けるなど、コンパクトな空間の中に細やかな配慮が充実されている。

建築概要

名称	関電不動産茅場町ビル
所在地	東京都中央区日本橋茅場町2-8-8
施主	関電不動産開発株式会社
設計	青木あすなろ建設株式会社
施工	青木あすなろ建設株式会社
竣工年月	2025年10月
敷地面積	263.56㎡
建築面積	212.36㎡
延床面積	1,760.47㎡
構造・階数	鉄骨造・地上9階
おもなTOTO使用機器	
ウォシュレット一体形便器 ネオレストAS:CES9710系	
パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B	
ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534AEY	
自動洗浄小便器:UFS900系	
水栓金具:TKWC35ESB	

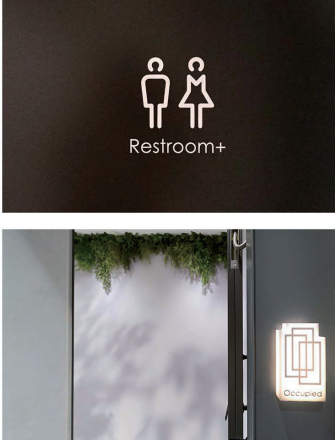


1F 内観

1Fは、「つながり」に味方する」という施設コンセプトを体現する共用部。多目的に活用できるラウンジや貸し会議室、マルチブースとコミュニケーションを取るためのさまざまな設備を集約した空間としている。



1F Restroom+



1Fには、「Restroom+」と名付けた、だれもが多目的に利用できるトイレを設置。基準階のトイレでは満たしきれない身繕いや気分転換のニーズに応え、ワークプレイスの中に“自分と向き合える”場を創出している。



1F Restroom+



ゆったりした空間を区切った、清潔感のあるリラックススペースには、おこもり感のあるソファも用意。特別な空間とするため、デザイン性に優れたウォシュレット一体形便器ネオレストASを採用している。



基準階
パントリー・トイレ入口



基準階のパントリーは、無機的な堅苦しい印象ではなく、カフェライクな設えとすることでバックヤード感をなくし、ワークスペースの延長として自然に溶け込む空間としている。



基準階 男性トイレ



アートクロスをあしらひ、明るくリフレッシュできるトイレ空間。小便器は空間をすっきりと見せる壁掛型、大便器は連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。意匠性と機能性を両立した。



基準階 女性トイレ



女性トイレにはパウダーコーナーを備え、コンパクトで限られた空間ながらも、細やかな工夫により快適に化粧しやすくするなど、空間の付加価値向上を図っている。